



広島研修



「平和を考える」

弥富中学校 加賀琉聖



【被爆ピアノから】

演奏会が開催される会場に入ると、1台のピアノが目に入った。それにはまだ生々しい傷が目立ち、戦争の残酷さを暗示しているようだった。

ピアノは、77年前の8月6日、広島市の住宅にあった。アメリカ軍が投下した原子爆弾は、爆心地から半径2 km 圏内を焼き尽くし、ピアノは爆心地から1.8km のところで被爆した。

無慈悲な核兵器の被害にあっても、奇跡的に残った被爆ピアノの音色は、どこか切なさを感じさせるようだったが、同時に平和の尊さをも優しく訴えているようだった。僕は、矢川さんの活動によって、多くの人が戦争の恐ろしさを理解すること、このピアノが将来の世代に継承され、その音色を響かせることを願っている。

【平和記念資料館での学び】

広島平和記念資料館は、終戦から10年後の1955年に開館した。以来、あの日さのこの雲の下で起こっていたことを伝え続けてきた。いざ資料館に入ってみると、想像を上回る、思わず目を背けたくくなるような資料がたくさんあった。焼け焦げた三輪車、ポロポロになった衣類、針が止まって動かない時計。それら全てを通して、小さな展示ケースには収まりきれないほどの辛さや悲しみが伝わってきて、僕はいたたまれない気持ちでいっぱいになった。しかし、起きてしまった事実を受け止めるしかなかった。

【平和学習を終えて】

平和学習で学んだことで、平和に対する意識は格段に上がった。戦争を実際に経験された方のお話は、とても学びがあった。「今の生活を当たり前だと思わないように」という言葉を聞き、食事ができる、勉強ができる、家族がいる、それら全てのことを当たり前だと思わず、感謝の気持ちをもって生活していこうと思う。

広島研修を通じて、さまざまな人の平和に対する願いや戦争の悲惨さについて知ることができた。今、平和な社会があるのは、戦争を経験された方々が、戦争を語り継いでいるからだと思う。僕たちもこうした平和への思いのバトンを受け継ぎ、平和な世の中を守っていかねばならないと思った。平和学習で知った戦争の事実と向き合い、今の僕たちには何ができるのかを考えていきたい。また、日本の平和だけでなく、世界の平和にも目を向けていきたい。

戦争から学んだこと

弥富中学校 伊藤 陽葵

【戦争が私たちに伝えたもの】

「争いは何も生まない。」よく耳にする言葉である。私も最初はそう思っていた。人々が傷つけあい、最終的に残ったのはこの世の地獄のような光景だった。何も生まないだけでなく、かけがえのないものをたくさん失った。

しかし、実際に広島へ行き、見聞きしたことで感じたことは、「辛い記憶」だけではなく、そこから今に至るまで苦しい思いをしながらか立ち直ってきた「人の強さ」もあったのではないかと、研修を通して感じた。

【辛い記憶】

1945年8月6日、午前8時15分47秒。広島に投下された原子爆弾は多くの犠牲者を生んだ。その中には、食べられることなく真っ黒に焼け焦げた弁当を抱えて亡くなった子どもや爆発で傷ついたピアノもあった。また、その時生き残った人の中でも原爆による大量の放射線を浴びてしまったことにより、数年後に原爆症として命を落としてしまった人も多くいた。

この出来事は、多くの人々の脳裏に「辛い記憶」として焼きつくことになった。

【再スタート】

だが、どうして「辛い記憶」として焼きつくことになったのか。全ては広島に原爆が落とされたからではないかと私は思う。そして、そもそも戦争が起きていなければ私はこの文章を書いていない。もちろん戦争など起きないことが一番よかったのだが、もし、起きていなかったら今の自分たちの平和な生活へのありがたみに気付かなかったかもしれない。

焼け野原から再スタートをし、見事に復興した広島町の並みを見た。戦争を教訓として、未来に繋げた「人の強さ」を学ぶことができた。

【まとめ】

私はこの研修で、「どんなことから学ぶことができる」ということに気が付いた。戦争は決して繰り返してはいけないけれど、私たちが普通の生活を送ることができていることに少なからず戦争から学んだことを生かすことができていると思うし、普段の生活でも、違う意見がぶつかり合うことで新しい考えが生まれたり、より仲良くなるきっかけになったりと、良い方向に向かうこともあると思う。

戦争はもう二度と繰り返されてはならないし、これ以上人々の命や希望、夢が消えてほしくない。私たちは、それを学びとして未来に生かしていかななくてはならないと強く思った。



歴史民俗資料館

教育の広場



歴史民俗資料館

歴史民俗資料館は、4月に弥富まちなか交流館(旧図書館棟)1階にリニューアルオープンし、毎月1,000人を超える方にご来館いただいています。

中でも、金魚と文鳥の「ふれあいコーナー」は人気が高く、関東・関西方面など遠方からもご来館いただいています。

金魚カードを配布しています

資料館では毎月、品種の異なる金魚カードを先着200枚無料で配布しています。9月は「青文魚(セイブングヨ)」です。裏面には品種の特徴などを紹介しています。



昭和の資料を集めています

資料館では昭和時代の暮らしに関する資料を収集しています。昔なつかしい郷土の行事や風景、学校生活の写真のほか、昭和の家電品、くらしの道具なども集めていますので、お気軽にお問い合わせ下さい。大切な写真はデータ化した後にお返しします。



企画展

「未来へ羽ばたく文鳥展」

— 弥富文鳥の150年と現在 —

▼とき 10月23日(日)まで
午前9時から午後5時

▼ところ 歴史民俗資料館

▼内容 白文鳥発祥地、弥富の文鳥飼育の歴史や、文鳥にかかわる活動などを紹介しています。



問 歴史民俗資料館(月曜日休館)